

磐城春秋

第十一期
發行所 磐城 高木印刷所
社址 磐城 高木印刷所
電話 八六二五
印刷 高木印刷所
水稲印刷所

【錢十四部一價定】

祖國の辿る途は

我等が双肩に在り

日本には日本の民主主義が適用されるべきであり、それは日本国民自ら決定すべきである。我々の使命を果すべく時機は遂に到来した。我が國民が眞に平和愛好者であることを世界に示すべきは我等が眞に最大のこの参政権を如何に行使するかに依つて決定するのである。決して輕卒は許されぬ、誤を犯してはならぬ、情實に於てはけじめなき欺瞞から捨て去るべきである。偶には民主日本は建設されるものでは無い。我等が民主の一票を眞剣に行使することによって初めて造られるのである。この行使を間違へば祖國日本は如何なる運命を辿らねばならぬかをよく考ふなければならない。

新人への期待絶大

要は自主投票

「随分立候補したものだ。然し誰が當選するだらうか」とこの話題に、
「是れは余りにも重大過ぎる。所謂自稱選挙通人達も」大抵は當るのだが、今度だけは全く五里霧中だ」と匙を投げてゐる。

新有権者と婦人の票が何處へ行かず、連記制と大選舉區を如何に活用するか、いやそれよりも目覺めた選挙民がどの位の自主的な投票をするかに混濁たる政狀を醸し出してゐる。

平市では矢張り地元運沼、關内兩氏を筆頭に新人新案、鈴木、長島の諸氏が個人的票を獲得し、社会、共産兩黨の大井川幸隆、松井政吉、日野定利氏等が黨への得票を相替期待出来る状態にあるが、特に新妻清一郎氏の街頭演説には相當の反響と同情を呼んでをり、星氏の從來からの勢力も見落し難い。要するに平は保守階

情に溺れてはいけない。この意味に於て我等は進んで各候補者の政見を聞き、その選挙事務所を訪ね、その眞對する我等の使命を果すべく時機は遂に到来した。我が國民が眞に平和愛好者であることを世界に示すべきは我等が眞に最大のこの参政権を如何に行使するかに依つて決定するのである。決して輕卒は許されぬ、誤を犯してはならぬ、情實に於てはけじめなき欺瞞から捨て去るべきである。偶には民主日本は建設されるものでは無い。我等が民主の一票を眞剣に行使することによって初めて造られるのである。この行使を間違へば祖國日本は如何なる運命を辿らねばならぬかをよく考ふなければならない。

會表發見政同合

- ### 平市の出場者決定
- 三月三十一日正午より
各候補者二十分宛
- 出陣候補者
 △共産黨 日野定利 △日蓮黨 新妻清文
 △進歩黨 連沼龍輔、古川傳一、星一
 △立憲養正會 齊藤晃 △青年國民黨 協秋
 △折笠藤雄 △無所属 長島菊苗、鈴木傳明
- 聴け十一候補の獅子吼を!!

人物紹介

御代亀太郎氏

小名濱漁業會長

小名濱の漁業組合長御代亀太郎氏は、當年五十五歳、親一代の漁師から叩き上げだ入だけに見るから野人だ。無難作に洋服を着、下駄をはいて事務所の火鉢の側で、どつき椅子に腰を下してゐる姿は、どう見ても現場事務合せで三十餘人を統轄する會長さんらしくは見えぬ。が、つらつらした、堂々たる、折に網操船を持って自家經營の折には網操船一機、遠洋漁業船一機を所有し、百六十人の漁師を養ふといふ實力を示し、組合の理事にあつた會長に就任したのである。立憲會中の一人といふべき御代さんは一般漁師のやうに遊藝の趣味

あるのであらうから結局この三氏の連記が期待出来るのであるが、大井川五郎、八代義定兩氏の進出が之を或程度迄阻んでゐる模様である。次で舊玉川を中心とした星氏の勢力も見逃し難い。社会、共産兩黨への同情は少ないやうである。

郡南は植田町を中心にして、も劣らない激戦を展開してゐるが、隱然たる勢力を持つ星一氏、植田を一手に占めてゐる古川氏等は相當根強いものがある、然し新人鈴木傳明、長島菊苗、折笠藤雄、新妻清一郎、齊藤晃各候補者の順序にて登壇二千余名の聴衆を前に熱烈に其の政見を發表した。

△鈴木傳明氏
 今次大戦は何故起きたかを説き、我國は敗戦の苦杯は嘗てたがアメリカに占領された事はソヴェットに占領された場合を想像するに非ざるに云はねばならぬと述べ最後に無所属の理由としてどの政黨にも共鳴出来ぬので、所以を辯じた。

△長島菊苗
 自分は曲つた事と合理的でない事は嫌ひである

本社 小名濱合同演説會報告

本社主催の小名濱町に於ける合同演説會は、四月二十日、同日第一國民學校講堂に於て開催された。本高木主筆の挨拶の後、鈴木傳明、長島菊苗、折笠藤雄、新妻清一郎、齊藤晃各候補者の順序にて登壇二千余名の聴衆を前に熱烈に其の政見を發表した。

△鈴木傳明氏
 今次大戦は何故起きたかを説き、我國は敗戦の苦杯は嘗てたがアメリカに占領された事はソヴェットに占領された場合を想像するに非ざるに云はねばならぬと述べ最後に無所属の理由としてどの政黨にも共鳴出来ぬので、所以を辯じた。

△長島菊苗
 自分は曲つた事と合理的でない事は嫌ひである

貝殼開放

中等學校の入學検査が終了して狭き門を希望者の幾人かは通過して幾人かは阻止された。

△試験といふことは、検査と改めて見たり筆答を廢して見たり、内申書制を採用して見たり、文部關係の官僚達が劣等生を持つた一部父兄や便乗主義の教育屋の意見に聽従した小手先の改廢が果してどれだけの教育的効果をあげ得たらうか。

△凡そ國民學校に於ける口答試験の準備教育位は劣等で、唯々國民を準備して進歩するから、面従後言の愛國者を出出しまふのだ。

△内申書制は教育上の憲兵制度だ。國民學校の父兄にとつても中等學校の上級學校に進む生徒にとつても内申書があるが、それが、卒業期に先生に物を贈る傾向は内申書がもたらした副産物だ。そしてそれが兒童の心理にどんな影響を與へてゐるか。中等學校の受験生が少年らしい元氣がなくなつて受持先生の顔色も何かがふやうになつたのは内申書に玉手箱だ。軍隊の身上調査の如く微に入り細を穿つていく以上その生徒の眞の素質をどうして決定つけられよう。

△將來のベスタロッチやエリソンを内申書でその芽を摘んでしまふやうな危険があらはれはしないか。現代の教育屋が嘗ての日本軍閥の如き心算があるといふなら我々また何をかいはんやである。

△三分か五分の口答試験で人物がわかるといふ事も不可能である。器量が好きと思ひ易い、田舎の出のボヤッとした兒は將來の大人物でも劣等兒放し易い。ましてや同じ問題を五、十回も聞くと心理的にも條件が違つてくる。

△明期に筆記試験を行へ、内申書は學科成績を点数で出すが、全然せずとも好いから自由にせよ。弊害を生ぜしめるやうな教育は民衆の聲によつて自から淘汰されてゆく。

△大なる情熱を燃やして、齊藤晃氏

農村問題の解決は肥料國營の斷行にありと説き、歴史の上に於て國民と天皇が直結されて初めて大改革は成功してゐる、故に天皇制打倒念無くば不可能であるといふ。日本最初の民衆民主主義

退蔵物資資發進 米飯供出促進

大衆の期待と希望の裡に

石城地方生活擁護同盟

堂々行動開始す

隠退蔵物資資發と飯米供出促進により現下の經濟危機を突破し一般勤勞階級の他の生活を擁護しようとする森勇氏外十九名の發起による石城地方生活擁護同盟は多大なる期待と反響の裡に去る二十三日結成式を舉行し愈々本格的行動に乗り出すことになつたが實行方法として情報は基に勸告狀の發送により自發的供出を求め然る後に擁護を行ふものであるが同盟では一般民の積極的な情報提供を期待してゐる。なほ役員及規約は左の通りである

役員

◎會長 大森勇
◎書記 永野孝夫
△企畫部長 折笠藤雄△組
織部長 箱崎滿美△情報部長 日野利春△會計部長 大内近雄△挺進隊長 佐藤子之吉
◎常任委員 清野庄一郎外 三百七拾二名
◎委員 諸橋敬一郎外百三拾一名

◇規約(草案)

一、名稱並ニ目的
第一條 本團體ハ石城地方生活擁護同盟(假稱)ト稱ス

第二條 本同盟ハ一般勤勞者、農民、復員軍人、引揚同胞、戰災者ノ生活ヲ擁護シ民主主義日本建設ノ基礎タル民生ノ安定ニ寄與スルタメ左ノ諸項ノ達成ヲ期ス

一、食糧供出ノ隘路打開
二、隠退蔵物資ノ發售ト配給機構ノ民主化

三、復員軍人、引揚同胞 戰災者、戰後遺家族ノ生活擁護
二、同盟員(略)
第六條 本同盟ニ總會ヲ設ク

總會ハ本同盟ノ最高決議機關ニシテ年一回コレヲ召集ス
但シ情勢ノ必要ニ應ジテ臨時總會ヲ開催スルモノトス

第七、八、九、十條(略)
第十一條 本同盟ハ必要ニ依リ各部門ヲ設ク
第十二條 本同盟ニ書記局ヲ置ク
書記局ノ部門ハ別ニ規定ヲ設ケテ之ヲ定ム

第十三條 書記局ニ書記長ヲ置ク
書記長ハ常任委員ノ一名コレヲ擔當ス

第十四條 本同盟ノ本部ヲ平市田町六八番地磐城春秋社ニ置キ必要ニ應ジ各町村ニ支部ヲ設ク
四、事業(略)
五、會計(略)

パン強制配給か

現在食糧團圓平製パン所に於ける一般家庭配給は一ヶ月約一万七、八千個でこれは漸減傾向にある。その他外食券用として約三万個出てをり、これは一日驟降に六百個、マルトモ食堂及十一屋食堂に三百個出てをり湯本に於ける家庭配給が平市に近い位増加して來てをるのは炭礦の加配米増加の影響と見られる

現在の値段は四十五錢であるが材料の値上りにより近く六、七十錢位に値上げされる。従來と違つて一食分のカロリーは魚粉等が入らなくならぬ穀類が混入されてをるがそれでも約三百カロリーの營養價となつてをる。縣食糧協會と協力未利用資源の粉化に依り市内學童に對する中食分のパン配給といふ事も考へられてをる

文 藝

一票を手にして

「一票を手にして」 平 一夫

どの党がい、だらう
誰がい、だらう
わたし達の生活を
本當に理解してくれる
党であり、人である
演説はみんな
い、事ばかり云つてゐる
悪い様に思へない
出来もしない事も
平氣で云つてゐるのでは
なからうか
一票を手にして
三名の名を選ぶさき
迷はずに書ける
党が欲しい
人が欲しい

充實した平高女

新校舎も着工
昨年七月平第一國民學校が空爆を受けた折、半壊状態の被害を受けた平高女は市當局が鋭意校舎の復舊を急いでゐたが資材、勞力等意に任かせず七万二千圓の豫算で堀江工業が工事を請負ひ年度内に完成する豫定の所、未着手の儘現在に到つてゐるが新學年を迎へ愈々着工の運びとなり目下資材運搬中六月迄には完成の見込である。同校は去る三月十八日第一回卒業生百七十五名を送り出し漸くその基礎の固つた所であり、四月からは専攻科を設置、特別室、研究室等を充實する一方優秀職員の充實をはかり校舎の復舊と相待つて教育民主化の線に沿つて飛躍すべく尾崎校長は市當局と協力種々の新計畫をたててゐる

小さな村で

眞木淑夫

また新しい春が來た
以前とちつとも變らずに
隙子に映るふ雲の影も
裏の林で鳴き止む鳥の聲も
木立の間をやはらかに行き交ふ
薄緑の匂ひのする風の歩みも
さうして新しい音楽にふくらんだ
私の古い胸の響も――
新しい時代の芽をのせて
村の道路を行き來するトラックも
小さな齒車のやうな動めの日々に
私は何處それを見送つたらう
その途にふくらみ始めた美しい櫻
の蕾たちを
薄緑の春よ 美しい建設に燃え
る人々よ
私は今新しいYシャツのやうに
軽くはげしく ありがたく
洗はれた心の
跡の上にとつかりと結びつける
立ち上らせもの
佐々木智司

稚妻折

草野比佐男

煖かき稚妻の瞳とほき空の霞
見たり花の影に
種くして嫁げば幸きことあらめ
百葉草の葉の裏に
掌の濡れの裏にわたりけり稚な顔未
だに失せぬ炭の要
炭の若き妻の手流れて流れて
あはれと思ひぬ童顔なれば
山小舎に脂粉も知らず老いゆくか
炭の妻のあはれなるかも

春

山の雪は融れれば霞にけむり
野に山にそして町に
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり
春は訪れり

俳句

春泥にふまへて背かぬ草のバス
春泥に持ち抱へたる獅子頭
春泥にふまへて背かぬ草のバス
春泥に持ち抱へたる獅子頭
春泥にふまへて背かぬ草のバス
春泥に持ち抱へたる獅子頭

求 貸 家

市内住宅向
日本勸業銀行平支店
平市南町六十六番地
電話三六八番

平 會 館

平市三丁目
電話六二四番

募集人員六十名
入學資格 高等科卒
修業年限 二ヶ年 實科高
修業年限 二ヶ年 實科高
修業年限 二ヶ年 實科高

集 募 徒 生

願書〆切四月十日
考查日四月十一日
平市榎小路一電三五七

映 書 案 内

二十八日〆切四月三日
甘くてワリと辛
松竹獨特の夫婦生活!!
「彼女の發言」
「日本ニュース」同時上映
四月四日〆切
問題の上映禁止映書!!
途に登場!!
「煉瓦女工」
「鐵腕ターザン」
「日本ニュース」同時上映
四月四日〆切

木村外科醫院

平市南町一四
電話八七二番

熱田齒科醫院

平市四丁目三三

鈴木小兒科

平市銀治町
電話四五二番

御 換 移

かねて建設中の新設工場も皆様の御後援により四月一日より操業を開始しました
これから新日本建設の爲に微力を盡す所存で居りますから何卒茲に倍す御指導御鞭撻賜はります様懇願申し上げます

株 式 大 阪 造 船 所 平 製 鋼 所

平市堂ノ前四番地
電話(平)七二六番
電話(平)七六三番

稚妻折

草野比佐男

小さな村で

眞木淑夫

充實した平高女

新校舎も着工

一票を手にして

平 一夫

パン強制配給か

現在食糧團圓平製パン所に於ける一般家庭配給は一ヶ月約一万七、八千個でこれは漸減傾向にある。

石城地方生活擁護同盟

堂々行動開始す

大衆の期待と希望の裡に

退蔵物資資發進 米飯供出促進